

福島を知る講演会②

福島市民が撮り続ける〈日常のなかの非日常〉 Fukushima Traces

震災以前から Twitter を始めていた著者は、なんということもなく日々を呟いていたが、震災を機に（とりわけ原発事故を機に）徐々にツイート数は増え、ツイートされる写真も増えていった（@akagishuji）。福島第一原発から 60 キロ余り離れた福島市周辺の放射線による影響は、深刻な地域に比べれば少なかったとはいえ、事故後のさまざまな、かつて経験したことのなかった事象に対して、赤城さんは敏感に反応し、カメラを向けた。記録することが使命であるかのように、丹念に執拗なまでに撮影はなされ、その一部は Twitter 上でコメントとともに公開されてきた。

□とき 2016年 **11月28日（月）** 17時00分～18時30分

□ところ **神戸大学 六甲台キャンパス アカデミア館 404 教室**

阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅から、神戸市バス 36 系統・鶴甲団地行「神大正門前」下車すぐ

□参加費 無料

□申込先： 神戸大学 学生ボランティア支援室

メール hq-vol@lab.kobe-u.ac.jp

講師 **赤城修司（あかぎ・しゅうじ）さん**

1967年、福島県生まれ。1989年、筑波大学芸術専門学群洋画コース卒業。青年海外協力隊員として1994年より2年間ブルガリアに滞在して美術教師として活動。出品展覧会に、「未来の体温 after AZUMAYA」（山本現代、アラタニウラノ、2013年）、「Transmission」（畠山直哉との二人展、スタジオ 35分、2014年）等。現在、福島市在住、高等学校美術教員。



□主催

神戸大学学生ボランティア支援室

hq-vol@lab.kobe-u.ac.jp

<http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/index.html>